

アジェンダ 21 ながの-環境行動計画-2023（案）に対していただいたご意見と考え方について

- 1 市民意見募集の目的 アジェンダ 21 ながの-環境行動計画-2023 の策定にあたり、新アジェンダ案を公表し、環境保全活動に取り組まれている皆様をはじめ多くの市民に公表し、意見等の提出を広く求め、これらを反映させる機会の確保を図るため実施した。

- 2 意見等の募集期間 令和 5 年 5 月 31 日（水） ～ 令和 5 年 6 月 16 日（金）

- 3 アジェンダ案の閲覧場所 ながの環境パートナーシップ会議ホームページ、環境保全温暖化対策課
（会員には電子メール若しくは郵送にて案を送付）

- 4 募集方法 所定の用紙に意見及び必要事項を記入の上、直接又は郵送、FAX、電子メールにて送付。
（ながの環境パートナーシップ会議ホームページからもダウンロード可能。）

- 5 募集結果
（1）意見等提出者数 4 人（窓口提出 0 人／郵送 0 人／FAX 2 人／電子メール 2 人）
（2）意見等の件数 14 件

◆提出内容ごとの件数

分 野	件 数
1 はじめに（総論関係、序章）	1
2 第1章 わたしたちのめざすもの	2
3 第2章 理想の街にむけて	8
4 第3章 パートナーシップで進める	0
5 資料	0
6 その他	3
合 計	14

◆意見等に対するながの環境パートナーシップ会議の考え方

意見等に対するながの環境パートナーシップ会議の考え方	件 数
A 計画（案）を修正する	1
B 計画（案）に盛り込まれており、修正しない	0
C 計画（案）を修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする	3
D 検討の結果、計画（案）を修正しない	0
E その他（質問への回答、状況説明など）	10
合 計	14

6 意見等の内容とながの環境パートナーシップ会議の考え方

A 計画（案）を修正する

No.	区分・テーマ	意見・提案の概要	ながの環境パートナーシップ会議の考え方
1	3 第2章 理想の街にむけて	29 ページの生ごみ削減・再生利用プロジェクトの今後の展望の部分に添付の写真を挿入して欲しい。	挿入します。

C 計画（案）を修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする

No.	区分・テーマ	意見・提案の概要	ながの環境パートナーシップ会議の考え方
1	3 第2章 理想の街にむけて	理事の数は3者対等に割り振られていないため、意見や活動方針が偏っている。 行政の理事として環境部長は役不足であり、本来であれば市長や副市長が担うべき。事業者の理事も長野商工会議所会頭が適任。	理事会の体制については、事務局体制と併せて見直しを進める必要があると考えており、いただいたご意見は、今後の検討の中で参考といたします。
2	3 第2章 理想の街にむけて	プラットフォームとしての環境パートナーシップ会議の支援を具体的に魅力ある内容にすれば（人、物、金の支援、各団体との連携、リスク管理等の内容）、各環境活動団体の新規加入や新しく発足するプロジェクトも増えるのではないかと。	今後は広報機能の強化、ならびに賛助会員制度の創設により、プロジェクトが企業をはじめ、様々な団体と連携できるような仕組みを構築します。他にも、こういった支援が必要かは、いただいたご意見を踏まえ検討します。
3	6 その他	これまでの活動の費用対効果を検証するべきである。	今後、検討します。

E その他（質問への回答、状況説明など）

No.	区分・テーマ	意見・提案の概要	ながの環境パートナーシップ会議の考え方
1	1 はじめに	これまでの実績や今後の展望から見て「SDGs」の旗を掲げるのは、誇大なアピールである。	活動は縮小傾向にありますが、継続している活動については、SDGsに寄与するものであると考えております。今後も引き続き、SDGsの達成に向けた活動の継続、拡大を図ります。
2	2 第1章 わたしたちのめざすもの	P会議の役割は、6ページ「(P会議)は、プロジェクトが環境ビジョン実現のために保全活動に取り組みます」と、5ページ「(P会議)は環境問題に関わる人や団体をつなぎ、伝え、実践する役割を担う」のどちらか。	両方の役割があります。 会議内のプロジェクトチームは、それぞれ独立して活動していますが、当会議の環境保全活動の根幹を担う存在です。 一方で、環境ビジョンの達成には、当会議の会員だけでなく、多くの人や団体の力も必要不可欠であり、こうした会議外との連携(つなぐ、伝える、実践する)は、会議全体として実施していくこととなります。
3	2 第1章 わたしたちのめざすもの	行政、事業者、市民に対して何の権限と責任があるのか分からない。	行政、事業者、市民の協働とは、それぞれの立場を理解しながら活動を進めることであり、基本的に、各者の権限や責任は各活動の中にあるものと考えます。
4	3 第2章 理想の街にむけて	市民の中の環境問題に関心のある一部の人のための趣味の世界の域を出ない。 長野市民の数、事業者の数、行政の職員数を考えると「環境パートナーシップ会議」の会員数はあまりにも少なく長野市の環境問題に取り組む市民活動とは言いがたい。	会員数は多いとは言えませんが、理想を掲げることは重要だと考えています。今後は広報機能の強化、ならびに賛助会員制度の創設により、プロジェクトが企業をはじめ、様々な団体と連携できるような仕組みを構築し、当会議のブランド力の向上を図ります。
5	3 第2章 理想の街にむけて	令和8年度まで毎年度目標を設定するべき。	毎年度の目標設定は、毎年度初めに作成する活動計画書にて行っています。

6	3 第2章 理想の街にむけて	18ページ以降の各プロジェクトの活動実績から見て、環境ビジョンの実現とは大げさではないか。本当に達成するのか。	当会議のプロジェクト活動は縮小を続けており、設立当初と比較し、ビジョンに対するアプローチが弱まっていることは否定できません。今後は、プロジェクト活動だけでなく、企業や学生等の独自の活動との連携を強化し、会議全体として、ビジョンの達成に向けた活動を強化します。
7	3 第2章 理想の街にむけて	大半のチームが目標と実績に差がある。	令和元年度東日本台風や令和2年度以降の新型コロナウイルス感染拡大などにより、活動が制限されたことが理由であると考えています。
8	3 第2章 理想の街にむけて	プロジェクト参加者数とはどういう意味か。	各プロジェクトが実施する活動(会議、体験会、保全活動等)への実参加者数の合計です。この数字には運営する会員も、各プロジェクトが募った一般参加者も含んでいます。
9	6 その他	会員に対してのリスク管理の啓発と教育は必須で、これは「環境パートナーシップ会議」の重要な役目である。	活動中におけるリスク管理については、理事会並びに事務局で検討しております。
10	6 その他	新たなプロジェクトチームがもっと生まれるとよい。私たちは家庭にある廃食用油(天ぷら油)の回収プロジェクトを考えている。将来的に他地区にも広がっていけばいいと考えているので、ご支援をよろしくお願ひしたい。	会員から新たなプロジェクト活動の提案があった場合には、チームの立ち上げを含め、継続的な活動支援を行っております。